



シンポジウム「共に育ち、共に学ぶ」

障害のある子もいない子も共に保育する園がある。普通学校で生き生き学ぶ障害児がいる。多様性の豊かさは、保育も教育も社会も豊かにする。
日時：2013年10月20日(日)13:00～16:00
会場：金沢市立玉川こども図書館交流ホール
入場無料（ただし資料代200円）

シンポジスト：

神原洋一（医学博士 お茶の水女子大学大学院教授）
徳田 茂（障害児を普通学級へ全国連絡会代表）
高 和世（金沢つながりの会代表）
大庭正宏（太陽の子保育園園長 / 東京都羽村市）
北方美穂（あそびをせんとや生まれけむ研究会代表）
主催：あそびをせんとや生まれけむ研究会（こども環境学会登録認証団体）、金沢つながりの会
お問い合わせ：北方美穂 miho.kitagata@gmail.com

本の紹介

『居場所のちから 生きてるだけですぐいんだ』
西野博之 教育史料出版会 2006年

本号「食べる・つながる・育つ」への西野氏登場を機に久々に本書を読み返した。
「僕らが求めているのはその人を排除するための専門性ではない。どうやったらその人を受け入れ、一緒に生きていけるかを考え合うこと。今まで、その人とつながりあっていこうとする人の「思い」より強い力をもつ『学説』に出会ったことがない。……」
改めて良い本だと思った。(K)

第18回 学校図書館のつどい

日時：2013年12月15日(日)13:00～16:30
会場：専修大学神田校舎 3030 教室（570人収容）
プログラム：

13:00～14:50 講演「電子書籍出版の現状と、図書館での活用の可能性について」(仮題)
植村八潮氏（専修大学教授。出版デジタル機構会長。元東京電気大学出版局局長）
15:00～15:50 報告「電子機器を使った図書館活動」横山寿美代氏（公立小学校学校司書）
15:50～16:30 交流会

参加費：700円（学生500円）

主催：親子読書地域文庫全国連絡会

<http://oyatiren.net/profile.html>

日本子どもの本研究会(実行委員長 近藤君子)

http://homepage3.nifty.com/kodomo_nohonken/

本の紹介

『なつかしい時間』長田弘 岩波新書 2013年

現代を代表する詩人による本書は、主にNHKの「視点・論点」で17年の長きにわたって放送された原稿を時系列にまとめたもの。「奇しくも本書は、二十世紀の終わりから二十一世紀へ、そして、3.11という時代の潮目に立ち会いつつ書になりました。(『あとがき 2013 大寒』より)」「大人と違って、子どもは、あたかも一日を人生そのものであるかのように生きます。今求められているのは、そのように一日を見やり、見つめることではないのだろうか、そう思っています。最もあたりまえの時間が最も新鮮な時間でなければならないのだということを考えます。(『一日を見つめる 2011.11.1』より)」
2001年3月14日の日付のある以下の一文。日付を10年先に一瞬見間違えた。「ただただ『手に入れる』だけの文化から、『使い方』の哲学をもつ文化への、価値観の転換。今という時代は、何より『使い方』の哲学を、切実に必要としています。」(K)